

07 株式会社世古工務店

- 所在地 三重県鈴鹿市磯山4丁目8番22号
- 事業内容 総合建設業/地盤補強事業
- 従業員数 27名(グループ会社全体44名)

HPは
こちら



テーマ 100年企業を目指すためのデジタル基盤整備と業務効率化

DXチャレンジの
きっかけ

当社では2019年からIoTやICTの導入に取り組んできましたが、2024年を機にさらに加速させたいと考えていました。その中で、県のホームページを通じてこの支援事業の存在を知り、参加を決めました。また、デジタル化は進めていたものの、各ツールがバラバラで連携が取れておらず、一元管理が課題となっていました。そのため、今回の支援を通じて、現状の整理と最適なシステムの選定を行いたいと考えました。

具体的な課題

- 1 DXツールを導入していたが、各ツールがバラバラで連携されていない
- 2 データが分散し、業務の一元管理ができていない
- 3 DXに対する社内の理解が不十分

社内では経理清算や勤怠管理のクラウド、スケジュール管理ツールなどを導入し、デジタル化を進めていました。しかし、各ツールが独立しており、連携が取れていないため、業務効率化の面で課題がありました。

伴走支援取組内容

業務フローを整理し、デジタルツールを統合

まず、現在使用しているツールを洗い出し、それぞれの費用対効果を検証しました。その結果、一部のツールを統合することで業務の効率化が図れる可能性があることがわかりました。

今後の
展望

kintoneの導入による
業務の一元管理を進める

今後は「kintone」を中心としたシステム統合を進めます。これにより、バラバラだったデジタルツールを統合し、業務のスリム化を図ることが期待できます。



今後の
展望

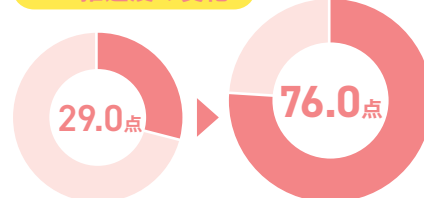
課題や費用対効果を可視化し、意識改革を推進

総務・経理部門の役割を強化し、DXの推進を担う人材を育成していきたいと考えています。将来的には、DXの推進を通じてペーパーレス化を加速させるとともに、社員の働きやすさ向上にもつながっていきます。

得られる効果(未来予測)

- ✓ 今後は、DXツールの統合による **業務スリム化**
- ✓ 業務の可視化と今後はデータ活用の促進
- ✓ 働く社員の方の意識が変革

DX推進度の変化



企業担当者の声

これまで使っていたツールの整理が進み、費用対効果を明確に把握することができました。また、「kintone」を活用することで業務の統合管理が可能になり、スリム化の方向性が見えてきました。特に、デジタルツールの導入に対する考え方が変わり、単なるシステム導入ではなく、「業務の本質的な改善」として捉えられるようになったことが大きな収穫です。

今後DXにチャレンジする企業へのメッセージ

DXは一步踏み出すことが重要です。新しい技術を導入することで、新たな課題が見えてきますが、それこそが改善のチャンスだと思います。また、中小企業であってもDXは避けて通れない道です。特に、三重県のように中小企業の多い地域では、大手企業との取引の中でDX対応が求められる場面が増えてきています。そのため、今から少しずつでもDXに取り組むことが、将来の成長につながると考えています。